

週刊センターニュース No.224



第224号(2008年9月8日) 毎週月曜日発行
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL：http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

第198回共同学習会のご案内

通常の曜日・時間と異なりますので、ご注意下さいますようお願い致します。

日時：9月16日(火) 15時30分～17時

会場：角間キャンパス総合教育1号館2階大会議室

報告者：大学教育開発・支援センター

テーマ：「新入生アンケート分析 - 学生の満足度について -」

他大学における学生の自主的活動を支える教育プログラム

学生の目的意識の希薄化や学力の多様化を抱える大学全入時代の学士課程教育の再構築について、中教審の答申や委員会報告が繰り返し指針を示している。専門分野ごとの到達目標やカリキュラム改革について引き続き議論されるであろうし、FDにおいても今後は専門分野ごとの教育内容の議論にその主活動は移行していくであろう。

現代に適合するカリキュラムや教育内容の検討、開発に合わせて、学生の学習意欲や能動的な課題発見・探究を促す教育システムの開発も進んでいる。学生の自主的活動を促す教育プログラムが1年次から実施される事例が各種GPに見られる。

平成19年度学生支援GPに採択された新潟大学のダブルホーム制では、1年生から3年生までの各学年8名、計24名が学部混成の第2ホームとしてグループを作り、各グループごとに大学内の研究プロジェクトに参加したり、地域の街づくりや文化伝承にテーマを探り地域での活動を行う。第1のホームは学生が所属する学部・学科を指す。4年生もピアサポーターとしてこれらの活動に参加し、学年の壁を超えたピア学生支援機能も持つように意図してこの第2ホームは設計されている。

和歌山大学では、学生自身がテーマを設定し活動した成果を単位認定する授業科目「自主演習」が平成7年度よりシステム工学部の設置に合わせて開講され、現在では教育学部、経済学部、大学院システム工学研究科へと拡大し、全学での取組となっている。この「自主演習」を中核とした、地域との協働や高大連携も包括する学生の自主活動を「学生自主創造科学センター」が支援している。これらの活動は、平成15年度特色GP、平成19年度現代GPとして採択されている。

「自主演習」には、1年前期から3年後期まで開講される教養科目「自主演習A~F」と専門科目「教育学部自主演習A,B(2年前期~4年前期まで開講)」、「経済学部自主演習C~F(2年前期~3年後期まで開講)」、「システム工学自主演習 ~ (1年前期~3年後期まで開講)」とがあり、すべて1単位で、教養科目は2単位まで、専門科目は教育学部が2単位まで、経済学部が2単位まで、システム工学部は4単位まで履修することができる。例えばシステム工学部では1年次から3年次までの6セメスターすべてで自主演習を履修できることになる。大学院システム工学研究科では1年前期から2年前期まで「システム工学特別自習演習 ~ 」が開講される。

自主演習の履修を希望する場合は、指導を受けようとする教員に「履修計画書」を提出し許可を受ける。履修計画書にはテーマ、背景、目標、計画を学生自身が記述する。指導を受けようとする教員が自身が所属する学部以外の教員である場合は、教養科目として履修登録する。テーマが所属する学

部の研究分野に近い場合は、所属学部の教員を指導教員として選び、専門科目として履修登録する。学生自主創造科学センターに自主演習の指導教員として登録する教員数は19年度140名となっている。自主演習の指導教員には1名あたり上限2万円の経費補助が行われる。平成19年度の自主演習の履修者数は前期243名、後期124名、また自主演習の開講以来これまでに延べ3861名が履修している。19年度の学生の自主演習のテーマを見ると多岐にわたっているが、およそ3分の2以上は学生1名での受講、つまり一人で自主演習を行っている。

平成18年度からは自主演習に興味はあるが何をやっていいかわからない学生のために教養科目「自主創造体験演習」を開講し、自主演習の履修の準備段階を整えている。また、自主演習の資金を援助する目的で、平成14年度から「学生自主演習プロジェクト」を募集し、上限50万円（特例として最高100万円）を毎年5件程度に援助している。成果は学内外の発表会やコンクールで報告される。

本学でも学長奨励研究制度が11年目を迎えている。今年度から全学必須化された初学者ゼミの受講を経て学長奨励研究制度に応募する流れが確立することを期待したい。

（文責 大学教育研究開発部門 西山宣昭）

FD・ICT講習会（主催：総合メディア基盤センター、FD・ICT教育推進室）

のご案内

第2回

日時：9月19日（金） 13:00～14:30

場所：総合メディア基盤センター プレゼンテーション室

講師：総合メディア基盤センター 松本豊司准教授

タイトル：「アカンサスポータルの授業活用例-1 歩んだPC活用講座の場合-」

概要：平成18年度からスタートした「情報処理基礎」の後を受ける授業として、「1歩んだPC活用講座」を平成19年度から開講している。この授業は、単にITリテラシーを教えるだけでなく、それを生かしたグループ課題を後半に設定していることに特徴がある。そのグループ課題を通して、お互いに刺激し合い、協力して一つの課題を成し遂げる過程で社会に求められるもの、例えばコミュニケーション能力などを養生する狙いがある。グループ課題を始める前に、学生に評価項目（ルーブリック）を示し、学生と教員がこれを共有することにより、迷いなく目的に向かって作業できるように工夫をしている。また、課題発表では、学生間で相互に評価する試みを取り入れて、互いに良いところを理解し、かつ自分の発表が他と比べてどういうレベルであるかを確認させる取り組みを行なっている。この授業の取り組みを実習を伴う授業の組み立て方の1つのヒントとして紹介する。

第3回

日時：9月26日（金） 13:00～14:30

場所：総合メディア基盤センター プレゼンテーション室

講師：総合メディア基盤センター 佐藤正英准教授

タイトル：「アカンサスポータルの授業活用例-情報処理基礎の場合-」

概要：平成20年度より、従来のポータルの機能を強化したアカンサスポータルが新たに動き出している。本講演では、全一年生を対象として前期に行われる情報処理基礎のうち、特に「情報倫理とネットワークセキュリティ」の部分の授業において、アカンサスポータルを利用することで、どのように効率化をはかっているのかを紹介する。

【お問合せ・お申込先】 FD・ICT教育推進室 森

電話：076-264-5817、メールアドレス：e-support@el.kanazawa-u.ac.jp